

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600052
法人名	社会福祉法人 博寿会
事業所名	グループホーム 高松みどりの里
所在地	鹿児島県曾於市末吉町諏訪方6875番地 (電話) 0986 - 76 - 7828
自己評価作成日	平成31年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然に恵まれ、家族の面会も多く、また、地域住民の方々がグランドゴルフの場として活用されるなど、人の出入りの多いところがあります。今後はさらに地域交流を活発にすることで地域に根差し、利用者様が地域で暮らしていること、地域の一員である事業所になるように努力していきたいと思ひます。

同敷地内には地域密着型の特別養護老人ホームが隣接、小規模多機能ホームが併設されており、環境の変化があまりなく在宅から入所サービスに移行でき、スムーズに入所できているケースが多くみられます。また、小規模多機能ホーム利用者様との面会・交流の機会も多く、入所ゆえの閉塞感がなく過ごせるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、自然にも恵まれた広い土地に立地している。同法人母体の特別養護老人ホームが隣接しており、利用者の状況に応じて法人内で連携し、家族の意向に沿ってグループホームから特別養護老人ホームへの選択も支援している。小規模多機能ホームも併設しており、往き来しての交流も自由で、職員も協力し合い支援体制ができていり。さらに災害時の協力体制もできていり。また、地域に庭を開放し、集落の敬老会やグランドゴルフに活用されている。お茶や菓子等を準備して交流している。
- ・地域の行事に積極的に参加し、夏祭りなどの法人の行事には多くの地域の人々や家族の参加がある。さらに地域密着型施設連絡会で、ホットカフェを立ち上げ、2ヶ月に1回「認知症ホットの会」を開催している。相談窓口として、積極的に地域と交流を進めている。
- ・職員間のコミュニケーションも良く離職者も少ない。福利厚生も充実しており、職員は利用者が地域の一員として笑顔で過ごせるように、個々人の残存能力を大切に取組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人共通の『理念』『職員訓』及び『職員の誓い』を掲げている。 また職員一同で法人理念に沿った『高松みどりの里の想い』を作成し、毎年年度初めに見直し、再確認行っている。	法人全体の理念を玄関に掲示し、地域密着型サービスを踏まえた職員の誓いも掲げている。月1回、ミーティングで唱和し、職員会議等で確認しながら、管理者と職員は理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民による協力員への定期的な説明、意見聴取を行っている。また周辺集落の方に庭を開放し、集落の敬老会やグランドゴルフに活用されている。夏祭りには多数の地域住民の参加がある。 学生の職場体験やボランティアも受け入れている。	敷地の庭を地域に開放し、週2回グランドゴルフが行われている。夏祭りも多くの地域住民が参加し、盛大に開催されている。幼稚園・小学生との交流や中・高校生の職場体験学習やボランティア等を受け入れている。認知症における講座も地域に向けて行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	利用希望者だけでなく、地域の方々の症状の相談や制度・施設の説明に努めている。 また、市主催のオレンジカフェに協力し、協同して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催し、地域住民代表、家族代表、行政の職員等に出席いただいている。</p> <p>利用状況の説明や意見要望を聞いている。</p> <p>職員には議事録の閲覧や申し送りノートの活用して伝達、家族へは苑の窓口で閲覧用の資料・議事録を用意している。</p>	<p>会議は定期的開催し、地域の代表を含めて関係者が集まって会議が行われている。事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の結果報告等を行い、参加者からも多くの助言や提案がある。</p> <p>職員には記録を残し回覧して、サービス向上に繋げている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議への参加（介護保険係）、2カ月おきの地域密着施設連絡会への参加（地域支援係）や窓口での随時相談を行っている。</p>	<p>市担当者とは、窓口に出向いたり、電話で事業所の実情や取り組みを伝え連携を深めている。また運営推進会議を通して協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加し、毎月ケアマネジャーの研修会にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の勉強会を開催し、職員への周知徹底を行っている。</p> <p>玄関等の施錠等も行っていない。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で年に2回勉強会を実施している。職員間の共通認識を図り、言葉による拘束も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関の施錠はせず、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。併設する小規模多機能ホームとの連携や地域の見守りもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催している。他にも資料配布や情報を提供し、注意喚起を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	虐待防止の勉強会を開催している。他にも資料配布や情報を提供し、注意喚起を行っている。 外部研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は、重要事項等の書類を含めた説明と、質問に答え理解を得られるように心掛けている。 利用前の見学や体験利用にて、事業所の理解や不安解消してから利用になるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人様との会話や、家族とは送迎時や電話連絡にて行っており、また苑だよりを個々で作成して情報交換している。 また、職員でも担当制を設けており、本人様・家族が話しやすいようにしている。	利用者からは夜間時や入浴時・ドライブ等のリラックスしている時に意見や要望を聞き、家族には面会時や家族会・電話で受診報告した時等に思いを聞いている。毎月「みどり新聞」で個々の現状報告もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的開催する職員会議に管理者が出席したり、日頃からの関わりで、職員の意見を聞き、代表者に必要時報告し検討している。	管理者は日々の申し送りや職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスしている。出された意見などで、認知症ホームの会や介護専門委員研修に参加し、就業環境にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務標準化のマトリクスを作成し、また個人目標を年度ごとに設定し評価するよう取り組んでいる。 また、有資格に応じた資格手当も創設し、スキルアップに対する評価を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部や管理者とともに研修方法や機会の確保に努めている。 内部研修は定期的開催しており、外部研修の機会の確保や、案内の紹介も行っている。 外部研修への参加に職種で偏りがあるため、出来るだけ他の職員も参加できるように研修計画を検討する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修案内等の文書類は回覧し情報提供している。 職員の経験や知識に応じて研修参加の機会を提供し、市主催の同業者対象のスキルアップ研修会や他職種連携の会への参加もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の面会や自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解や職員を覚えて頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の面会や自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解や職員を覚えて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、当事業所の利用に限らず、その方の状況に応じて介護サービスの説明や他事業所の案内も含めて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿った目標『高松みどりの里の想い』を職員であげ、食事やお茶を一緒に行うことで、一緒に生活している『共同生活者』となるように努力している。利用者の掃除などの家事に参加も増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へも協力の必要性を説明し、介護計画書に盛り込むなど、ご協力いただいている。面会も多くみられ、必要時は受診への付き添いもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや周辺地域へのドライブなど行っている。 併設事業所の小規模多機能ホームの利用者や地位r機のグランドゴルフ利用者などなじみの方々の面会も多い。 利用者様の個人台帳に、自宅周辺地図をつづり、地域性の理解を図るようにしている。	家族や友人・知人・併設の小規模多機能ホームの利用者・地域のグランドゴルフ参加者の面会が多い。外食や墓参・行きつけの理美容院等へ家族や職員と外出している。年賀状を書いたり、手紙・電話の取次ぎなども行って継続的關係が途切れないよう支援している。携帯電話を所持している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格も考慮した上での座席や役割などの生活環境を考えている。また、その時々利用者様の関係を、申し送り等にて職員で配慮し、その時でも対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も、連絡をとったり担当の方と連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向を確認した上でのプラン立案や、日常の介護に努めている。また、計画書も本人様の言葉・表現になるように言葉に留意して作成している。 入浴の時間帯や順番など、配慮して支援している。	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。特に介護保険の更新時等に情報を収集し一人ひとり記録している。困難な利用者は、家族の面会時や電話で話を聞き利用者本位の支援に結びつくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や会話、家族からの情報収集で、把握するように努めている。 以前の暮らしへの情報が少ないため、基本情報シートを作り直し情報収集と共有に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活状況を踏まえ、日々の生活状態を観察し、個々の生活リズムで過ごせるように努力している。 ライフサポート一覧を活用し、生活の個別性ができるように心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向確認を行い、ミーティングにて評価・検討を行っている。	本人・家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。毎月、ミーティングで評価・検討を行っている。モニタリングは、3ヶ月毎に実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、その他に申し送り簿や日誌を活用し、定期的にミーティング開催で情報の共有や評価につなげられるようにしている。 介護計画の実施状況も記録し、評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、家族の葬式参列や個別の外出・計画以外のケアなど、できるだけ対応できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの参加や、家族以外の友人や知人の面会があるなど、地域に根付いた家になるように努力している。 図書館や文化センター、道の駅など近い施設を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、入所前の主治医を継続するなど、希望や経緯を踏まえて支援している。 受診後も電話や個別の苑便りで報告している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関から4週間に1回往診があり、必要時も往診対応している。歯科も往診で対応している。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診・往診以外にも必要に応じ連絡を取り合っている。 また、併設事業所の看護師との連携を行い、治療に対するアドバイスや主治医への報告につなげている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の面会や、家族の相談などに努めている。病院関係者とも、現状の確認や今後の方針について連絡を取り合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>一定の基準も設けており、利用開始時や必要時に説明を行っている。 『急変時の対応』同意書を家族と相談のもと作成しており、意向確認を行っている。</p>	<p>契約時に重度化に伴う対応の指針をマニュアルを基に説明し、同意書を貰っている。同法人の特別養護老人ホームの説明もしている。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し「急変時の対応」で同意書を貰っている。家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会の開催や資料配布、研修の参加などにて、知識・技術の向上に努めている。消防署の救命士による研修の機会をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な消防訓練の開催や、近隣住民の方々に協力隊になって頂いている。近隣協力隊の連絡網も作成している。</p>	<p>消防署立会いのもとで年1回、自主で年1回、同系列の小規模多機能ホームと合同で昼夜想定避難訓練を実施している。さらに地震想定訓練も実施している。スプリンクラーや緊急通報装置等も整備し、定期的に設備等の点検も実施している。近隣住民の協力隊が連絡網に登録されるなど協力体制もできている。災害時の水・米・缶詰・インスタントラーメンなどがある。ヘルメット・カセットコンロ等の準備もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『基本ケア』のマニュアルを作成、認知症・権利擁護の勉強会を開催し、新職員への指導に活用し、1年おきに全職員で見直し、徹底するようにしている。	「基本ケア」のマニュアルに沿って、認知症や権利擁護の勉強会を実施し、新人研修や職員の資質向上に向けて取り組んでいる。入室や入浴介助・排泄介助などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物など、本人様の嗜好・意向をくめるように、選択できる場を提供しており、できるだけ自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など、自宅での状況やその時の様子で実施している。本人様の意向や自宅での様子、家族と要望の考慮した生活をしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一緒に準備したり、入浴などその都度利用者様が洋服を選択している。 利用者様、個々の化粧水等も持参いただき使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と一緒に考えたり、味見を利用者様にさせていただき、調理でも皮むきや調理レクなど可能な作業を行える機会をできるだけ持つようにしている。調理レクリエーションの時間も確保している。その日の利用者の意見でメニュー変更することもある。	栄養士の献立で、旬の食材や嗜好に配慮し、個々に応じた食事形態を工夫している。野菜の皮むきや下膳など職員と一緒にやっている。一人ひとりの誕生日の希望献立や季節の行事食、弁当持参の花見、外出など食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や嗜好をできるだけ考慮して、必要な食事・水分量が摂れるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、担当職員や排せつ委員が中心となり、オムツの必要性も含め評価・検討している。 オムツ料金の表示による職員への意識やオムツの見直しを行い、費用負担の軽減にも配慮している。	排泄記録を付け、個別に習慣やパターンを表情やしぐさなどで判断して自立に向けた誘導をしている。オムツ外しにも取り組んでいて改善した利用者もいる。夜間も見守り、現在は夜のオムツ使用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、担当職員や排泄つ委員が中心となり、オムツの必要性も含め評価・検討している。服薬だけでなく、食物繊維の補助用品を使用したりしている。 また、状況に応じて医師や看護師へ報告・相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な予定は組んでいるが、健康状態や気分、自宅での状況を考慮して行っている。 好みにより入浴剤の使用や、近隣住民から頂いた果実を入れたお風呂なども行っている。	基本的には週3回、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。現在、利用者はいないがリフト浴も設置している。脱衣所の温度管理にも配慮している。保湿成分の高い入浴剤を使用している。入浴を拒む利用者にも時間調整や声かけなど職員間で連携して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や覚醒時間を個人のリズムやその時の状態で過ごしていただくように配慮している。 入所前に使用していた湯たんぽの使用もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『薬の紹介』を個人台帳に綴り確認できるようにしており、新たな処方時は申し送りノートや口頭での伝達も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や希望を基に、ケアプランをはじめ、日々の生活や行事に取り入れている。 *家事や嗜好品など。 栄養ドリンクやヤクルトの預かりと定期的提供。マッサージ器の使用。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>苑外の外出は多くないが、広い苑庭での散歩や運動をできるだけするようにしている。 利用者様の意向により、食材や野菜・花の苗の買い物など職員とともに行かれることもある。</p>	<p>日常的に敷地内の散歩や外気浴を楽しんでいる。週2回地域の方がグランドゴルフで訪れるので、交流を楽しんでいる。希望で個別に買い物や理美容院・墓参の支援を行っている。計画を立て、初詣や花見・地域行事に出かけている。家族の協力で外出や外食・墓参なども行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>診療代などの支払い用に苑で管理しているが、数名の利用者は財布を金庫にて預かり、外出時に使用できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様や家族の希望時は、いつでもできるようにしている。実際に、家族より定期的な電話や手紙が送ってこられたりしている。また、利用者が年賀状を家族へ送っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用生活スペースからは、外が眺められるようになっており、開放感がある空間となっている。利用者様がひなたぼっこや風にあたりたりされている。</p>	<p>共用の空間は天井が高く、窓も大きく開放的である。換気や採光・温度・湿度に配慮し清潔である。自由に外気浴ができるよう窓が開放されている。季節感を大事にした飾りつけや利用者の作品などが掲示され、多くの花が飾ってある。ソファも多く居心地よく過ごせるような工夫がされている。小規模多機能ホームとの行き来も自由である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースも、食事の場所・テレビの前のソファ、掘りごたつ式の畳などそれぞれが好みにより過ごせるようにしている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのベッド以外は自宅より持参して頂き、また写真や遺影の持参など個人の空間となるようにしている。</p>	<p>各居室内にトイレが備え付けられており、ラジオ・家族写真・テレビ・レクリエーションで作った作品などが飾られている。居室の物の配置も本人や家族と職員が話し合って居心地よく工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>キッチンも対面式でできるだけ参加できるようにしており、手すりの設置やパイアフリーにするなど活動の制限がないようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない